



平成29年度東京地本援護協力会部隊研修

また新たな「習志野」の

奥深い歴史に触れて来ました！

◇ 研修場所：陸上自衛隊習志野駐屯地
 ◇ 研修日時：平成 29 年 11 月 14 日 (火)

先般「東京地本援護協力会」は、城南・城西地区合同による恒例の部隊研修を「習志野駐屯地」に於いて実施しました。参加者は、都内「立川駅」と市ヶ谷「グランドヒル」の二ヶ所を集合地点にしてバスで移動です。

研修内容は、各施設及び展示装備品見学、跳出塔からの降下訓練体験、体験喫食等、駐屯地の日常や歴史研修ですが、「習志野」と言えば、自衛隊唯一にして最強なる第1空挺団のホームグラウンドです。また、年明け早々の「降下訓練始め」は、今や全国津々浦々に名を馳せる一大イベントの開催地でもあり、また「みりば」のレギュラーとして定期取材をさせて頂いてい



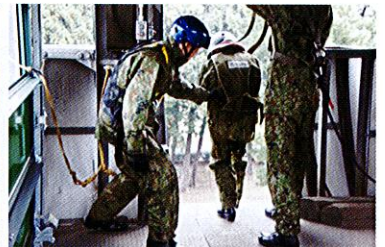
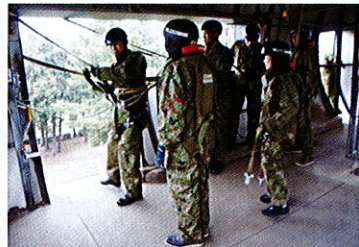
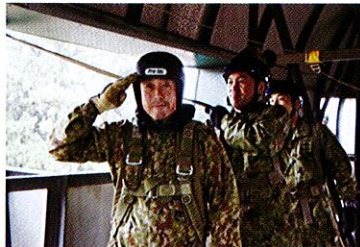
◇写真上「空挺館」前の研修一行。写真下は、コロニアル様式の風情ある「空挺館」全景。

る私にとつての準ホームでもあります。内心胸の一つも張りたい処ですが、実の処式展やイベントの取材では、行動範囲や防衛上の規制もあって、なかなか望み通りに行かないのが、習志野の唯一たる所以なのです。

しかし、その難関も今回の研修では、ナビゲーターを務めてくれた広報の細やかな気配りとレクチャーのお陰で、僅かながら漸く念願が叶い、部隊の内情に触れる事が出来ました。

特に、「空挺館」については、明治に遡る事、東京・駒場の旧陸軍兵学校に天皇の馬術観覧を目的として建てられた「御馬見所」に由来し、大正5年に同校の「習志野」移転と共に移築され、「迎賓館」として入隊される皇族の宿舎に使用されていた事、また一時期駐留軍に接收されるも、昭和32年自衛隊に移行されて「空挺館」と改名し、現在は空挺団の資料や旧陸軍落下傘部隊、騎兵連隊関連の展示「資料館」として活用されている事等、逐一明解な説明で、更に奥深く「習志野」の由緒ある歴史を知る有意義な研修体験をさせて頂きました。

また、一行は降下装備を装着して跳出塔からの降下体験にも臨みましたが、まるで若返ったかのように、意気揚々と果敢にチャレンジして、初めて隊員の苦勞を痛感したようです。



◇写真上：降下装備を装着して、跳出塔から降下体験に挑む一行。指導官の“人間の恐怖心は40mがボーダーライン”との助言も何のその、果敢に挑み終始ご満悦のようでした。



降下訓練の展示施設



パラシュートの整備施設現場



訓練準備に余念のない隊員